

市民の困りごとに応じた 情報配信サービスの実装

国立大学法人筑波大学 五十嵐浩也(佐々木銀河)

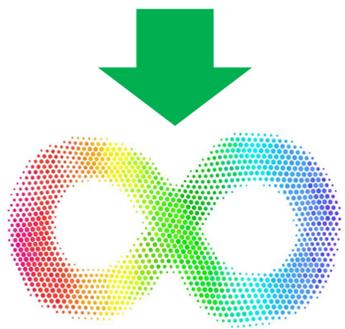
提案の背景



発達障害 = “目に見えない”障害
のある市民の増加



サポートを受けるために「障害者」になる必要があった
学業不振や職場不適応などの問題が生じてからの事後的対応



NEURODIVERSITY

©Tracy Brian

脳の多様性

“障害”ではなく、特性（得意・苦手）に基づく
大学生向けの支援情報配信サービス
「Learning Support Book (LSB)」を開発

発達障害学生にとって役立つ支援機器や
アプリ、テクニックに関する情報を集積
障害の有無に関わらず、特性に応じて配信



大学生

トライアル概要



社会人

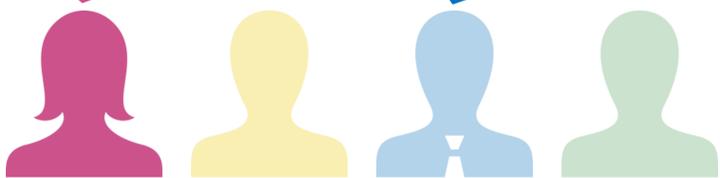
高校生

高校生・社会人を対象とした
「Learning Support Book」トライアル講座を実施
ユーザーヒアリングと利用状況の解析を行い
学業上・就業上の困りごとの解決の程度を検証する

期待される効果・実現する未来社会

発達障害？

違う！



発達障害かどうか明確でない
「グレーゾーン」の市民が
支援にアクセスしにくい状態



「すべての人」が
自分の苦手を補う情報を
身近な端末からアクセス

インクルーシブな
未来社会（共生社会）の構築